

—スタッフ紹介—

役 職	スタッフ名
主任部長	萩野 惠三
部 長	射場 昭典
医 長	佐々木 有見子
副医長	樋口 雅俊
医 員	松浦 昌三

—概要—

2021年はスタッフの異動があった。岸和田徳洲会病院へ宮井晴加先生が異動され、代わりに和歌山県立医大から樋口雅俊医師を泌尿器科副医長として迎えた。

2021年の泌尿器科外来患者数はのべ14,759人/年、1日あたりの平均外来患者数は60.7人/日、年間新規患者数は810人/年、1日あたりの平均新規患者数は3.33人/日であった。入院患者数は559名/年であった。泌尿器科の病棟ベッド数は2015年から1床増えて、18床である。当科で2021年に施行した手術の詳細は以下の表を参考にさせていただきたい。主な手術は膀胱全摘除術＋回腸導管造設術2件、腹腔鏡手術（副腎、腎、腎尿管など）30件、経尿道的膀胱腫瘍切除術（TUR-BT）130件、経尿道的尿管碎石術（TUL）91件、経皮的腎碎石術（PNL）9件、経尿道的レーザー前立腺核出術（HoLEP）21件などであった。

泉州地域における泌尿器科診療の基幹施設の一つとして、数多くの手術実績を地道に積み重ねていくことにより、地域社会に貢献していきたいと考える。

—実績—

2021年1月～12月  
年間手術総計：356件（ESWL除く）

- 開創手術：40件
- 腹腔鏡手術：30件
- 尿路内視鏡手術：286件

手術名	開創	腹腔鏡	ロボット
副腎摘除術	0	2	0
単純腎摘除術	0	0	0
根治的腎摘除術	0	11	0
腎部分切除術	0	1	0
腎盂形成術	0	0	0
腎尿管全摘除術	0	6	0
尿管膀胱新吻合術	2	0	0
膀胱全摘除術	2	0	0
尿管皮膚瘻造設術	0	1	0
回腸導管造設術	2	0	0
前立腺全摘除術	0	0	0

手術名	件数
精巣摘除術	2
高位精巣摘除術	3
精巣固定術	7
精巣水腫・精液嚢根治術	7
精管切断術	1
包茎手術	7
女子尿失禁根治術	0
PNL	9
TUL	91
膀胱碎石術	19
TUR-P/HoLEP	1/21
TUR-Bt	130
腎盂尿管鏡検査	15
ESWL	63
腹腔鏡下尿管摘出術	8
腹腔鏡下リンパ節摘除術	1
腹腔鏡下リンパ節生検	1
後腹膜リンパ節郭清術	0
閉鎖リンパ節郭清術	0

手術名	件数
過酸化水素水注入	1
尿管尿管吻合術	0
尿管膀胱新吻合術	2
経尿道的尿管拡張術	2
尿管部分切除術	0
創部縫合術	0
内尿道切開術	1
尿道カルンクル切除術	3
陰茎生検	1
精巣捻転手術	2
陰茎部分切除術	1
陰茎全摘除術	1
精巣固定術	7
精巣摘除術	2
高位精巣摘除術	3
膀胱尿管新吻合術	2
膀胱切石術	1
骨盤内臓全摘	1
腎瘻造設術	5
膀胱瘻造設術	0

—今年度の成果と反省点—

当科の入院患者数は2008年から2015年まで8年連続で増加傾向が続いた。同時に医師2名の交代が重なった2016年はいったん減少に転じた。しかし2017年は636名とすぐに2015年並みの入院患者数（2015年は636名）に回復した。2018年は563名と前年比87名もの減少であった。2019年の年間入院患者数は566名と入院患者の減少傾向に歯止めがかかったかに見えたが、2020年は529名と再び減少傾向になった。2021年は559名と回復傾向が見られた。

—来年度への抱負—

2019年3月、22年ぶりに体外衝撃波結石破碎装置がドルニエ社製Delta IIに更新された。2019年4月泌尿器科外来に超音波診断装置 キヤノンメディカルシステムズ社製 Xario100 Platinum が2018年に続いて2台目が導入された。2019年9月高出力ホルミウム・ヤグレーザー60W日本ルミナス社Versa Pulseの導入に伴い、2019年9月から経尿道的レーザー前立腺核出術（HoLEP）が開始された。HoLEPは導入された2019年は6例にとどまったが、2020年には23例と一気に増加した。またこの2年間で従来の経尿道的前立腺切除術（TUR-P）は2020年の6例から2021年の1例に減少しているものの、TUR-P/HoLEPの件数は2019年が13/6件、2020年が6/23件、2021年が1/23件とHoLEPの比率が増加している。2020年3月には主に経皮的腎碎石術（PNL）で使用されるボストンサイエンティフィック社リソクラスト2が、2021年3月にはストルツ社ウロマトが導入され、尿路結石症内

視鏡手術における手術リスクが著明軽減された。

また当施設は、経皮的尿路結石除去術(PNL)と経尿道的尿管結石碎石術(TUL)を同一患者に1回の手術で同時に施術するECIRS (Endoscopic Combined IntraRenal Surgery)を実施できる大阪府下で数少ない施設である。ECIRSの施術により従来治療が困難だった腎サンゴ状結石ならびに腎部分サンゴ状結石の治療期間短縮に大きく貢献している。

近年、泌尿器科領域では大阪府南部泉州地域においてもロボット手術支援システムが急速に普及しつつあり、従来から稼働している岸和田徳洲会病院に加え、2022年度中に市立岸和田市民病院にも導入が予定されている。ポストコロナの成長戦略を考える上でも、同システムの導入を病院により強く要望していく。